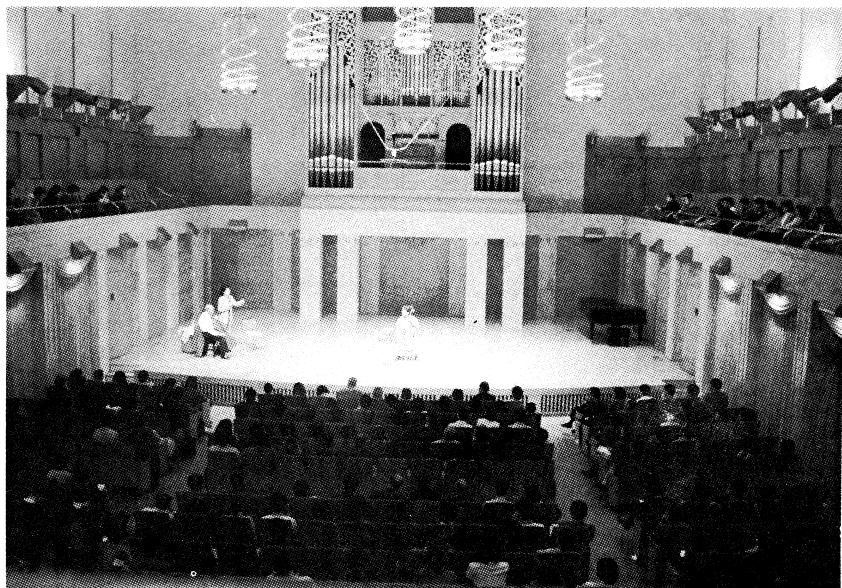




# JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第8号 (1999年12月18日)

## ヤーノシュ・シュタルケル氏 待望のマスタークラス開講



I

待望だったヤーノシュ・シュタルケル氏のマスタークラスが、堤会長の努力と、今回の招聘元である神原音楽事務所の協力によって実現しました。10月5日のカザルスホールは聴講の方々でほぼ満席。マスタークラスは、3名の受講生が受講しました。

そのマスタークラスの模様は、裏でどたばたやってい



た事務局はほとんど聞き逃していてレポートできないので(すみません)、入内島氏、岩瀬氏、村尾氏3氏から頂いたメモを、重複になる部分もありますが基本的にそのまま掲載します。参考になるでしょうか?



- ・マスタークラスというと講師が生徒に弾き方を一方的に教えるというものが普通だが、自分は弾き方と一緒に考えていく場にしたい、ということをおっしゃっていた。
- ・自分はなまけものだから、練習を効率的に行って短い時間で済ませることを追求する。それによって本を読む時間もできるし、人生の幅を広げられる。練習では、どこに問題があるかを考えることが必要である。
- ・チェロはハイポジションで左手が下の方に行ってしまうので、屈み込むことになりやすい。しかし、高い音を弾くのに屈み込むのは見栄えがよくない。高い音を弾くのに胸を張るようにしよう。……と言って屈み込むところを実演して見せてくれたのがひょうきんで、会場は大爆笑でした。前回の公開レッスンでは、シュタルケルの言うことはわかりやすいけれどクールで受

講生は怖かったろうな、という印象を持った記憶があるのですが、今回はその印象とはまるで違いました。



- ・右手の人差指と親指にテンションをかけすぎると、手首が固くなる→指先のテンションを緩めていくことで、手首と指が独立して動けるようになる。
- ・親指を使用する高音域のポジションに来た場合、親指と他の指との関係（繋がり）を意識し、手のひら全体で音を感じる。指先のみで音を捉えない。
- ・高音域を弾くときほど、楽器に覆い被さらず、逆に身体を開いて弾くことを意識する。（プライドを持って堂々と弾くこと！）
- ・前腕を使って運弓すること。手先だけでなく、腕全体で弓をコントロールしないと、弦に対しての弓の位置が上下してしまうことになる。（駒と指板の間での弓の描く軌跡が上下するという意味です）
- ・右手  
  
positive soundとnegative sound  
positive sound→（歌い込む時）親指を曲げて弾く  
negative sound→親指を伸ばして弾く
- ・counter pressure（対抗する力）を利用する  
→クレッシェンドの時には、膝で楽器をコントロールし、弓に向かって楽器の横を押してあげる。
- ・アウフトクトは、弓順に関係なく、弓を上に持ち上げる感じで弾き始める。（実際にそういう動作をするのではなくて「感じる」のだそうです）
- ・曲の中で、大きな（音の）跳躍がある場所は、歌えるところ。そこで歌えるようなフィンガリングを考え、その跳躍をキーフレーズにする。
- ・ハイポジションから（音が）下がっていく時には、腕を使って下がること。
- ・どの弦のどの位置に、ハーモニクスがあるのかを知つておくこと。  
→position mapがどのように描かれているか、把握する必要がある。

曲想などに関わらない範囲で言われたのは、こんなところでしょうか。

ちなみに曲は、ロココの主題による変奏曲、ベートーベンのソナタの4番、コダーアの無伴奏ソナタでした。

最後に「何か曲を弾くにあたって、「自分がどう弾きたいか」だけではなく「作曲者がどういう風に弾いて欲しかったか」を考えることも必要なのではないか。例えば、バッハならバッハの時代の演奏法を知ることも大切である。和声の進行や楽譜の形（書式）などを、自分なりに研究し、その作曲家とその曲にふさわしい音を自分で探してみること。自分で答えを出すことにより、自分で納得がいければ、聞き手への説得力も生まれてくると思う。」

とおっしゃっていたのが印象に残りました。



まずロココでは、演奏者の姿勢について、座り方：「チェロを構えた状態でそのまま立ち上がれますか？足の位置や体のバランスが不安定なために指先ばかりに力が入って、縦の動きだけで表情付けをしている。そのためには“頑張りすぎ”という印象が伝わってくる。あなたが今の姿勢のままチェロを続けると10年後、20年後に体に悪影響が出ないかと心配です。」

聴講している人にも一目見てわかる印象を上げて問題点の検討に入るあたりはさすがに教え慣れていらっしゃるんでしょうね。しかもディテールもしっかり見逃していない。

「エネルギーは肩甲骨と上腕部で作り、手はそれを伝える役割。」たしか、この後に岩瀬さんのおっしゃる「人差し指と親指にテンション云々」という部分に入っていたのですよね。

もうひとつ姿勢のことで「歌手は高い声を出す時に体を前に屈めはしない。むしろ胸を張って体を開くはずだ。アイザック・スターも“楽器を弾く時は堂々とプライドを持って”と言っています。」この後、受講者に実演させていたのは傑作でしたね。やらされている本人もまるでペテンにでもかかったような表情をしていて面白かった。

個人的には声楽の話と結び付けてくれたので、とても解りやすかったです。

この辺り、梶さんがいつも紹介される「耳をひらいて心まで」にも通じますね。

#### 曲想については

「チャイコフスキーにとってのロココとはOld Fashion=モーツアルトのこと。だからモーツアルトの時代の音楽には無意味なポルタメントはいらない。ひとつひとつの音をクリアに出すように。グリッサンドは到達音よりも強調してはならない。」という部分が説得力があって、よく解りました。

#### ベートーベンでは、

「あなたはどのようなイメージを持ってこのフレーズを演奏しますか？」あまり明確に答えられなかつた受講者に対して、「具体的に言葉で表せるイメージを最初から持って演奏に臨むことが大切。」と言っていました。この言葉を聞いて、モーリス・ジャンドロン校訂版のバッハ無伴奏チェロ組曲に書かれていた「はっきりしないということは、嘘をついているかあるいは嘘をつこうとしていることに他ならない。」という言葉を思い出しました。うへん、嘘をつかない演奏をしたい。

このレッスンでは、音色の一貫性について様々な角度から話されていましたね。合唱だったとか、オーケス

トラだったらとか、もし自分が歌っているとして、声部の使い方や息遣い（呼吸）はどうかとか。でも一番、目から鱗だったのは、「（弦に）松ヤニが（上下）5センチも幅でついているが、意識的にそう弾いているのか？」

もし、そうやって弾いている位置（駒寄りか指板よりか）によってダイナミクスに変化をつけようとすれば、音色が変化したり、音のざらつきの原因になってしまう。」（氏の言葉通りではないですが。だいたいこんな内容かと。

何せ、大学オケに入った頃から、先輩にも当時のトレーナーにも「大きい音を出す時は駒寄りで、小さい音は指板寄りで」と教わっていたので。今まで何の疑問も持たなかった自分が恥ずかしい。後で自分の先生に話したら、「そうそう、最近は音大の学生も音色の作り方について勉強不足なんだよね。」と言っていました。

コダーイでは、

「ハンガリー語の特徴としてアクセントが頭にくるので、そのことを意識して。」というのは、コダーイ自身が「音楽教育における母国語の重要性」を説いていることとリンクしています。

無伴奏曲を演奏するときの注意点としては、“AND”

is most important word

フレーズの切れ目に入れる“AND”的重要性を実演しながら説明してくださいました。とても解りやすかったです。

あと、技術的なことの羅列になりますが…

- ・右手の親指の位置は常に同じ場所ではない。
- ・いつも同じ指でトリルをかけない。（表情によって変えなさい。）
- ・常にハーモニクスの位置を頭に入れておくこと。
- ・左手シフトチェンジの際には、親指を他の指の助けとして使う。

公開レッスン全体を通しては、プロを目指す人達に対して、「考えろ。」ということをしきりに言い聞かせていたように思います。

コンスタントに安定した音楽を提供するためには、こうすればこうなるということを常にわかっていること。」だと。聴いている方もいろいろと“考えさせられた”一夜でした。

## 1000人のチェロ1周年記念同窓会開かれる

昨年の1000人のチェロから1年がたちました。1周年を祝うとともに連携の継続をはかるため、11月14日、高円宮殿下をお迎えして、1000人のチェロの同窓会が神戸を開かれました。

午後のチェロアンサンブルの会では、みんなでアンサンブルを演奏した後、各地のグループによるアンサンブルコンテストも行われて、大いに楽しんだようです。夕方には記念パーティも行われて、参加者は昨年の感激に再度浸っていました。2次会、3次会と楽しんだ方もいたようで…。

会には、この企画の提案者であるヴァインスハイマー氏や、エバーハルト・フィンケ氏からのメッセージも届いています（別掲します）。事務局長の松本巧さんは、次の機会にはもっと多くのプロのチェリストに参加頂いて、と2001年の開催を計画しておられます。期待したいと思います。

### ■ヴァインスハイマー氏のメッセージ

11月9日、ベルリンの壁で166人のチェリストがロストロポーヴィチと演奏しました。ロストロポーヴィチには1000人のチェロのコンサートの書類、写真、プログラムを渡してあります。1月14日に集まる皆さんに、そして、高円宮殿下によろしくとのことです。私からも、集まるチェリスト全員によろしくお伝え下さい。

### ■フィンケ氏からのメッセージ

1年前の1000人のチェロ・コンサートは私にとって忘れることの出来ないことでした。本日の記念日に参加できなくて申し訳ありません。私は今、皆さんお近くの西宮おりますが、別のコンサートの練習のためおじやまできません。今日のイベントが昨年のあのすばらしいコンサートを思い起こすこと願っております。

### 山崎伸子さんのチェロサロン

11月20日にカザルスホールリハーサル室で山崎伸子さんによりチェロサロンが開かれ20人弱の会員の方が集まりました。丸くなってチェロを持ちすわった全員に、右手、左手の技術に関する問題点などを、個人個人の体格や技術を見ながらクリニックしました。全員から質問が相次ぎ、こういうのは慣れていないとおっしゃる山崎さんでしたが、熱心な指導に思わず時間が押してしまいそうになるほどでした。最後に、全員でバッハの「主よ、人の望みの喜びよ」をチェロアンサンブルで楽しみ、和気藹々とした会を終えました。



リレーエッセイ

## 秋の群馬 雜感

毛利 伯郎

今日は11月17日。昨日木枯らし1号が吹いたとかでやっと冬を迎えあと少しで2000年になります。

今月の初め、久々に休みが取れたので妻とぶらっとドライブに行きました。

行き先は決めていなかったのですが、中央道は私達がよく通るので、めったに行かない関越に入り群馬方面へ。途中赤城山、榛名山が見えて来た時、昔の懐かしい事を少しづつ思い出しました。

私は九州出身の両親と共に小学校2年生の時、群馬県の高崎市に越してきました。

当時、アマチュアの合奏団があり、父が趣味でチェロを弾いていた事もありよく練習に出掛けて行きましたが、それが後に本格的になり群馬交響楽団へと発展しました。

その父の影響でチェロを始めた私ですが、今音楽家として色々な事を感じたりする事の多くはこの頃の環境がとても大きく私の中に占めています。

高崎市は山が遠くに見え家の物干し台から赤城山、榛名山、谷川岳などが遠くにパノラマの様に広がり、多感な頃にレコードを聴いては時々景色を見たりしていました（当時は、特に感動をしようなどと言う高尚なものではなく、物干し台がなんとなく空気のうまい気分転換の場所だったのです）が、そうしているうちに何となく風景に合った音楽が沢山ある事を感じ、その頃からベートーベンの田園やブルームスのシンフォニーなどがとても好きになり、よく聴くようになりました。

当時でも、高崎から前橋に出るとそこから赤城行

きのバスが出ていて、昔から写真を撮るのが好きだった事もあって時々赤城山に出掛けて行き、秋の紅葉を撮ったりボートに乗ったり、冬は氷の上を歩き回ったりして過ごしましたが、次第に陽が落ちてきた時の、山の夕暮れの寂しく心細かったのを思い出します。

そんな事を想いながら猿ヶ峠温泉で一休みして谷川岳まで足をのばしましたが、細い道ながらとても高い所まで車で行けるのには驚きました。きっと最近まではなかったのだろうと思われる細い道で「我々の車から出る排気ガスが歩いている人達にとってどんなにか気をそがれるだろうな」などと思いながらものろのろと登って行き、目前に迫る山にしばし感動。しばらくそこで静かな時を過ごし、のんびりと帰って来ました。数日後、ニュースで今はすっかり雪に覆われてしまったと聞き、無意識についこの前見た景色に雪をかぶった様子を思い浮かべてみました。

今、色々な所を演奏旅行する機会が多いですが、その土地の自然に接する時、やはりボートと昔の風景が頭によぎって来ます。

そんな昔の経験が私が音楽に接した第1歩だった様な気がします。



## ご案内

### ◆第4回全日本ビバホールチェロコンクールについて

来年7月に行われる養父町の第4回全日本ビバホールチェロコンクールの概要がまとめました。  
(応募要項はチェロ協会に取り寄せておきます)

日 程 第1次予選 2000年7月19日(水)、20日(木)  
第2次予選 7月21日(金)  
本 選 7月23日(日)

場 所 兵庫県養父町公民館 ビバホール

審査員 堤剛(コンクールアドバイザー)、  
上村昇、菊池知也、北本秀樹、倉田澄子、花崎薰、堀了介、山崎伸子

課題曲 第1次 バッハ：無伴奏チェロ組曲第4, 5, 6番のいずれかのプレリュード、サラバンド、ジークを演奏する  
第2次 ベートーヴェン：ソナタ第3番、パガニーニ：ロッシーニの主題による変奏曲  
本選 エルガー、ドヴォルザーク、ハイドン(二長調)、シューマンのいずれかの協奏曲か、チャイコフスキーのロココの主題による変奏曲

申込期間 2000年4月1日～30日まで

問い合わせ ☎667-0101 兵庫県養父郡養父町広谷250 養父町公民館内  
全日本養父ホールチェロコンクール事務局  
電話 0796-64-1141 FAX 0796-64-1363

### ◆スパシーバコンサート

昨年もご案内しましたスパシーバコンサート。今年も行われます。チラシを同封しましたので、興味のある方は是非おいで下さい。

### ◆ペレーニのコンサート

1月28日 旭川 大雪クリスタルホール (無伴奏リサイタル)  
2月 2日 東京 カザルスホール (無伴奏リサイタル)  
2月 4日 東京 NHKホール (NHK交響楽団定期演奏会=ブラームス:ヴァイオリンとチェロのための協奏曲)  
5日 東京 NHKホール (同 上)

今回のリサイタルでは、名作、コダーリの無伴奏チェロソナタが聴けます。昨年のマスタークラスでのコダーリの内容と演奏が飛び抜けて魅力的、興味深かったため、今回は無伴奏リサイタルをお願いする事にしたものです。NHK交響楽団との演奏は、テレビ、ラジオでも収録されます。

### ◆書籍

「斎藤秀雄講義録」(白水社) 小沢征爾、堤剛、前橋汀子、安田謙一郎、山崎伸子(編)

1972年から74年にかけて桐朋学園大学音楽学部付属子供のための音楽教室広島分室で行われた講義の記録を、テープから丹念に起こした労作。斎藤秀雄というたぐいまれな教育者の音楽に対する言葉を通じて、彼の人間までもが生々しく著されていると思います。

(3200円+税)

# JCSからのお知らせ

## 評議委員会のご報告

11月16日、お茶の水スクエア応接室に置いて評議委員会が開かれました。

今回は堀、倉田、毛利3氏が欠席されましたが、11月という多忙な時期にもかかわらず8名（堤、中島、河野、山崎、苅田、斎藤、上村、児玉）が出席。

### 日本チェロ協会事務局について

まず、来年3月で解散するカザルスホール企画室アウフタクトにかわる事務局について、5月の会報で引受け先を公募しましたが、手を挙げてくださった中からどこにお願いするのが一番良いかを討議しました。現在その結果を受けて調整を始めたところです。移行の時期などその他のことはまだ決まっておりませんが、もうしばらくしたら皆様に正式にお知らせできると思います。

### 第2回総会について

総会+大会として、東京でなく1泊2日で皆が集える場所という話で、会員でもある山中湖のペンションゼロの堀口省平さんに白羽の矢を立てて進めていくことにいたしました。

現在、以下のようなことを行つもりでおりますが、皆様からも、こういうことをやって欲しい、ということがあれば、どんどん提案していただければと思います。担当を斎藤建寛氏にお願いしましたが、面白そうなことがあれば、事務局にご提案下さい。また、研究発表のようなことなどのアイデアも受け付けます。

### 第2回総会&大会

第2回の総会は、会員の親睦などを一層活発化するため、1泊2日の日程での大会と一緒にすることにいたしました。

日 時 2000年6月25日（土） 26日（日）

場 所 山中湖のペンションゼロを中心として

内 容 25日 2時～ 総会

その後 研究発表、懇親会、チェロ  
アンサンブル

26日 クリニック、演奏発表～昼すぎまで

などを検討しています。詳細は2月末の会報でご報告いたします。

宿泊の手配など現地手配を堀口氏にお願いしようと思っております。

## 第6回チェロサロン（東京）

第6回のチェロサロンは2000年3月18日（土）に行います。

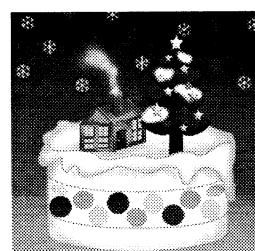
場所：カザルスホールリハーサル室  
(千代田区神田駿河台1-6 お茶の水スクエアC館地下3階)

時間：夕方からの予定です。

今回の担当は苅田雅治さんにおねがいしています。詳細は未定。

## お 願 い

最近、チェロ関係の情報の集まりが少なくなってしましました。発行時期のズレなどの問題もありますが、どんどん情報を寄せ下さい。コンサート、書籍、CD、楽器その他何でも結構です。



日本チェロ協会会報（JCS NEWS）第8号

1999年12月18日発行

発 行：日本チェロ協会

東京都千代田区神田駿河台1-6お茶の水スクエアA館  
カザルスホール企画室アウフタクト内

電話03-3295-7586 FAX 03-3293-5257

発行人：堤 剛